

近世から近代の大工の建築生産の実態を知る

このテーマのキーワード	木造建築、社寺建築、大工、建築生産、調査研究
関連するSDGs開発目標	

研究内容(社会背景・目的、概要、期待される効果)

(社会背景・目的)

日本の建築文化は木の文化とともに育まれてきました。ものづくりにおける建物を建てる技術は、古くから引き継がれてきた技術を根幹としつつ、時代の流れの中で新たな技術の受容を繰り返し、革新され進化を続けてきました。中でも木造建築に関する技術は古くから脈々と引き継がれてきた部分が多いです。そして、木造技術を使って建てられた多くの建物が、修復を繰り返しながら現代まで大切に保存されてきました。

関東地域における近世社寺建築は、18世紀になると彫物装飾を多用する傾向がみられます。これらの造営においては、建物を建てる役割を担う大工と建物を彫物によって装飾する役割を担う彫物師による分業した生産体制がありました。しかし、建築生産の直接的な担い手である大工の活動については不明な点が多いのが現状です。

(概要)

近世から近代にかけて活動していた大工による建築生産の実態について、社寺建築遺構の建物調査を行うとともに社寺建築の造営の際に作成された造営関係史料などの分析を行ない考察します。そこには、技術者である大工の技術・技能に関する情報がつまっています。それらの技術・技能は現代にも通じるものがたくさんあります。

(期待される効果)

現代のものづくりに関する技術・技能は、過去の技術・技能を工夫し、研鑽し、発展させたものです。過去のものづくりに関する技術・技能を知ること、現代の技術・技能の発展につなげます。

想定される適用分野・用途・業界

- 市史編纂などのための建物調査など
- 古文書史料の整理・分類、目録作成など

産業界へのアピールポイント

- 調査研究を行うことで建築物の価値を見出すとともに、地域の魅力の向上と地域の活性化に活用できる情報を提供します。

建設学科 奥崎 優 助教

このテーマに関するお問合せ
E-mail : mric@iot.ac.jp

ものづくり研究情報センター
TEL : 048-564-3880